

心から出るのである。

松が古から多くの人々に由つて歌や詩に詠せられたところを見るにその性状の何物か、人心に感動を興へるものと思はねばならぬ、それは葉の形か、枝振の工合かと云ふことはたしかにそれと言ひ現はすことは出来ないけれども要するに松の全体の性状に歸せねばならぬ、その葉の形状や性状や枝振の工合なども或は人の心を引くに足るものがあるには違ひないがその海岸に好んで生育する性状とか或は岩上高く蟠まることの出来る性状とかは確かに詩や歌の題目となることの一つの理由であらねばならぬ。

もしも冬季松に葉がなかつたならばそれが雪景色を見ることは出来ぬ、また海岸高く數十丈の丈けに生育するの性状がなかつたならば、それに懸れる月の壯麗雄大なる状に接することが出来ない、東海道の路傍に聳ゆる松はかくも丈け高

く延々として蟠かまればこそ旅人の慰安の一になるのである、所詮は松の一般の性状が人々の心の琴線に觸れるやうに出来ておるからである。之れ何の不思議もないことである、然かし之れ松の特性を現はしたものである、松の特性を人々に解せしめんがために特にかゝることを述べたのである。

蓬萊山

妓王

蓬萊山には千歳ふる

萬歳千秋かさなれり

松の枝には鶴巢くひ

巖の上には龜遊ぶ

松は單に詩歌の題目となるばかりでない實に世にも名高き我日本島の景色をして一段と立派にしておるのである、もしも我邦から松を除いたならばその景色

は如何であるかと云ふことに思ひ及んだならば如何に松が我が風景に重きをなしておると云ふことが明らかではないか。
三保の松原は松あるが爲めにその景が出来天の橋立は松に由つて三景の一に連なり松島は松を取り去れば一つの岩石に過ぎないのである、北は北海道より南は九州臺灣に至るまで海岸の景色は松に由つて彩ざられておると云ふても過言ではない、近江八景は松あればこそ面白いのである、吉野の櫻花は緑なる松が交つてこそその美を増しておるのである、舞子の濱の景色はその根上り松に由つて名高いのではないか、四國の高松は松の名所であるに由つて景色が良いのである、岸打つ漁のほりに突き出でたる松が枝はそが海岸を飾れる小松原と相待つて外國に見ることの出来ない風景を書いておるのである。
昔時三百の諸侯が江戸に参勤交代の時分にその通行する路傍に植えられたる松

が如何に彼の旅情を慰めたであらうか東海道の松の並木はどれ丈け人々の疲れを慰めたであらうか、濱松は景色好き松が多いから付けられたる名である、日本の昔畫かれたる風景畫に松を見出さないのは稀れである。
松なくしては我國の風景の世界にはこるに足る可きものはない、もしも我邦をして世界の公園たらしめんとしたならば須らく先づ松の培養を怠つてはならぬ。我邦は土地は狭ましく人口は多く土地は以て年々殖へる人口を養ふことが出来ない、近頃の米の高いのは色々の原因もあらんかなれども米の生産が増し殖へる人口を養ふに不足するからであるのが主なる原因であるに違ひない、國を富ますには商業も必要である工業も必要に違ひがないが、これ等は何れも多く資本を要することである貧乏なる我邦はいや或る一派の人々に由つて貧乏にされたる我邦は到底多くの資本を商工業に費すの餘裕がない資本が多く掛らす

に世界各國から多く金の入り込む工夫をするより外に仕方がない、それは我邦の居ながらにして有せる好風景の美を益々發揮せしめて世界の隅々から人々を引き寄せる工合をするより早道はない、いや近道はない、乃ち云ひかへれば我邦全島をして世界の公園たらしむるにあるのだ、世界の公園たる資格のあるやうに我邦を作り上げて一度来た人々は必ずその好風景を忘れ兼ねて二度も三度も来らしむるやうにするのが最も良い方法である、要は外國人を引き付けるに足る設備をするのだ、その設備として「ホテル」その他の旅情を慰する設備も必要には違ひないがその根本である、景風をします／＼立派に造り上げねばならぬ、「ホテル」の庭、公園のほゞり汽車の沿道、「ステーション」日光箱根はた伊香保などすべて外人の遊覽する要所要所にはすべて枝振り良き松を植へ込むがよい、我邦に見受けらるやうな見事な枝振りの松は世界各國にはない

のである、始めて我邦に來た外人は種々なるものに趣味を感じるであらうが決して好風景の本尊たる松は見逃さないものである、松は實に外人を待つのである。我邦の櫻花を賞せんがために特に春季我邦を訪ふの外人も少くないが櫻花は松と相對してます／＼その美を發揮するのである淡紅色なる櫻花は緑なる松と調和してこそその美を増すのであるまいか我邦の庭園に植へられたる千紫萬紅の草花は松あつてこそその美が引立つのである、秋の紅葉でさへ緑なる松と交じつてこそ趣味深いのである。我邦の名所と云ふ名所には松のないところはない、山青く水清きのはどり松を見ないところはない、櫻は春四月でなければ開かないが松はいつも青々としておる、松をして我日本島の周圍を圍ましますの外山と云はず野と云はず庭園と云はずすべて松を出來得る丈植へ込みて良き風景を到るところに現はすの

は決して無意味のことではない、我邦民たるもの松の培養と云ふことをば一日も忘れてはならぬ、余は我邦の到るところに松が植へ込まれて眞に世界の公園たるに恥ぢぬ好風景となるの時期を待つのである。

第十六話 衛生と松

人烟少なき田舎のことは暫く置き都會の空氣について少しく考ふるに特に東京や大阪や乃至は横濱などの空氣について少しく思を巡らせば實に恐る可きことがある、人々よ少しく都會の郊外に立つてその空を眺められよ、烟突から吐き出す烟街上から立ち昇る黄塵に由つて如何にそが空天が漠々として塵芥に由つて充ち／＼て如何なる晴天の日でもお一つとしておることが氣が付くであらう、常に透明である可き空氣がかくも烟塵に由つて汚がれては之れを何時も吸

ふておる人々に知らず／＼害毒を及ぼすのは見易きことである、街路の黄塵や烟突から出る烟は絶へず吾々に吸ひ込まれて常に肺に害を及ぼしつゝあるのである、之れ等を吸入することは都會に居住する人々には或は免かる可からざることにしても或る何等かの方法に由つて之れが害毒を幾分かでも軽減することが出来たならばどれほど幸福であらうか、いや有益であらうか。

近來都市の路傍に樹木を植えることはだん／＼人々の注目するところとなつて誠に結構なことではあるがその植へる樹を撰ばないとその利益が極めて少ないのである、從來東京市中に多く植へ込まれておる樹木は種々あるけれども余はかゝる目的に植える樹は松にこしたものはないと主張するのである、松が衛生上からも風景上からも最も良き樹と思ふ、公園などには幾ら松が良からとて松ばかりを植へ込むわけには行かぬ、他の樹に松が交つて良き調和が取れるや

うに松にも他の色々な樹木が交らなければ面白くないから公園などのやうな心神を慰める場所には千差萬別の種々な樹木を植へることが或は必要には違ひないが單に衛生的の目的を以て街路や庭園に植える樹木は松に及ぶものはない。都會の不衛生なる主る原因はその空氣の不潔にある、空氣の不潔の害はだんだん調べてみると人々の想像以上のものである、而して空氣の不潔を來たす主なるものは煤烟と塵芥とである、之れ等は主として眼や肺を害して従つて諸般の疾病の根本をなすのである。

してみると何か樹木を植へて此恐る可き煤烟や塵芥を幾分かなりとも防ぐことが出來たならば實に衛生上有益なることではあるまいか、此れ等を防ぐに適當なる者は松である、東京のやうな乾風が常に吹いて黄塵萬丈と云ふやうなところにては尙更ら之れを防ぐ何等の設備が必要なので之れには松を植へるのが

最も良いのである。

松の葉は別に説明するまでもなく細かで密で不潔なる空氣は之れに遇へば頂度不純なる水が水濾器に遇て濾過されて清潔となるやうに清透になるのである、松を植え置くことは頂度空氣を濾す器械をすえ付けたやうなものだ、もしも風上に松を植へてその下に居れば幾ら風が吹いて黄塵を飛ばして來ても害はないのである、驚くことはない、家の周圍にすうつと松を植え込んで置けば外部から入り込む空氣はすべて濾せて來るのである、空氣は上から下に降つては來ない必ず横から入り來るのである、風は決して上から下に向つては吹かない横から吹き來るのである、東から來ることも西から吹くことも北からも南からも吹くことはあるが必ず横から來るのである、此故にかりに家の周圍に松を植へ廻したならば必ず周圍の空氣は濾せて來るから衛生上どれだけの利益があるか分

らない。

してみると庭に植へる松は決してその枝振りを賞するのみに必要なのではない
衛生上實に大なる利益がある云はねばならぬ、此故に庭園には成る可く多く
松を植ゆるがよい、風上に植ゆるがよい、工場のある方面へ植へ置くがよい、
かくせば最早や黄塵は恐るゝに足らぬのである幾ら風が吹いて外は黄塵萬丈
のときでも庭の内は清らかな空氣に充ちておるのである。

管に庭園ばかりでない、路傍の植へ木は成る可く松にするがよい、松の葉をし
て煤烟や塵芥の吸収器とするがよい、雨が降れば自然に洗ひ去らるゝのである。
銀座街頭の柳の木は松に代へるがよい、正月の門松となる可き運命を持つた
松は實に人間に長壽を與へるのである、松は決して街路の風景を損するもので
ない、その枝振り良き松は絶へざる慰安を人々に與えるのである、東海道の松

が旅人の慰安となるならば十字街頭の松は實に生馬の眼を抜く云ふ劇しき都
會の人士にも慰安を與へるに違ひない、柳の枝に掛つた月よりも松ヶ枝の月は
その眺めがまた格別ではないか。

單に銀座の街頭ばかりでない到るところの市中の路傍にはそが植え込まれ得る
限り松を植えるがよい、塵芥に充たされたる都會の空氣は必らず松に由つて濾
過されねばならない、水と同じやうに空氣も体内に入り込むのである不潔なる
水が身体を害するならば不潔なる空氣もやはり害を與えるのである、濾過され
たる水が水道に由つて供給されるやうに松に由つて濾過されたる空氣が得たい
ものだ。

管手に述べて置くが松を路傍に植へる場合にはその根部に例の燐炭を充分に施
し置けば能く生育するのである、從來何れの樹木でも路傍のやうな「セメント」

で堅めてある場所とか或は人が踏み堅めて堅くなつておる場所に植ゆる場合には必ず幾分か軟かな地所を開けて置いたものだ、之れかくせねば樹木が生育しなかつたがためであつた、然るに燐炭を根に施して置きさへすればかゝる必要がない、燐炭は根の生育に無上の効果を持つておつて之れを施せばたとひ堅き街路の下にても能く生育するのである。

此事は余が燐炭の研究に従事したと殆んど同時期に獨乙國に於ても實驗證明せられて確實になつたのである、之でみると燐炭を用ひさへすれば樹木の値へ込みにも誠に手数がかゝらぬから容易に出来るのである、此燐炭は何れの樹木にも効のあるのであるが特に松にはその効が著大であるやうである。

以上述べ來つた理由に由り東京市は松と櫻で埋めるがよい、松の都市とするがよい、正月に門松を立てる必要のない位にしたならば面白いではないか、い

や、衛生上是れほど良きことはなく市民は長命となつて永くこの幸福を受けるであらう。

第十七話 紀念樹と松

近頃は種々なる紀念日に樹を植えて永く後世に傳へんとするの風習が大分盛んになつて來た之れ誠に結構なことである、紀念碑や銅像を以て後世に残すと同時に樹をも植へて以て朝夕の紀念を止めるのは良きことである、さてその紀念樹たる可きものは永き生命を保つものでなくてはならぬ、幾百千年の後までも愈々榮え行く可きものでなくてはならぬ、また他から徒らに害を受け易きものではならぬと同時に成る可くはその風姿が如何にも壯嚴で人をして日々之れに接して心神を練るの力を得るやうなものであらねばならぬ、學校の紀念木とし

ては學生をして高尚の觀念を起さすやうなものでなくてはならぬ。此等の目的を達するには松ほど紀念木として適當なものはない、松は永き生命を保つ可き性狀を持つておる數百年は愚かなこと數千年でさへもそが生活力を維持することが出来るのである。

元來多くの植物特に樹木は他の障害を受けない限りは永く／＼その生命を維持す可きものである單に松に限つたことはい多く樹木の枯死するのは風の害とか虫の害とか温度の劇變とか其他種々なる外部からの害が加はるから枯れるのである、動物は大概限りある生命を持つておる、吾々人類を始めとして長命と唱へらるゝ鶴でも龜でも象でも到底千年の壽を保つことは出来ない千年は愚かなこと實は數百年に亘つて生命を維持するものはない、たとひ他から害は受けなくとも内部の器管が衰へて内部から斃れて來るのである。

然るに植物は之れと異なり外部から障害を受けない限りは千年でも萬年でも生存しておる可き性狀を持つておるのである、之れその理由とするところを少しく述べて見ると植物はその組織上から云ふても根でも枝でも年々歳々先きへ先きへと新らしき組織が出來て行きて到底老の來るを知らないやうに出來ておる根からは年々新たな芽が出來てそれから伸びて新たな生命を持つて行くし根もまた地下に於て先へ先へと年々伸びて四八方へ擴がり新らたな天地を開いて行くいや新たな生命を造つて行ので此點は大に動物とは異なつておるのである。

動物は一度生れてからは一定の期間迄は生長して行きその後生長が止まり漸次老衰に向ふ一方であつて決して植物のやうに手の先に芽が出たり新らしき頭が出來たりはしない、一度出來た器管は一定して一向に變りがない變りがあるのは老衰に向ふ一方である。

植物は此點に於て大に動物と異なつてすん／＼と年々新らしき芽が殖へて恰かも新たな生命が出来たかのやうに繁殖して行くから幾百千年経つたとして決して全体が枯死することはない、或はその一部分は不用になつたがために枯死を來たすことはあろうが他から非常なる障害を受けない限りは決して枯死するやうなことはなく先づその生命たるや無限である。

かく無限である可き生命も永き／＼間には兎角障害を受け易いもので千年の壽を保つ樹木は割合に少いのである、人間でも大隈伯の説明を待たないでも随分百年以上の壽命を保つことの出来る運命を持つてはおるが百歳に達する人の少ないのは之れ蓋し病氣と云ふ障害が侵し來るからである、もしもその病氣に打ち勝ちて之れを退けさへすれば必ず百歳以上生存することが出来るのである。

人間でさへ他からの障害を免れない樹木が數十百年の間に種々の故障に遇つて枯死するのは何の不思議もない。

此故に紀念樹として植へて成る可く永く／＼その生命を維持して行くには出来る丈け他から障害を受け難いよし受けても容易に枯死しないものでなくてはならぬ。此目的に協うものは我邦では松を置いては他にないのである。

松はその性としてやたらに他から障害を受けない、元來その性は能く乾燥に堪へ養分の不足に堪へて極めて強健であるに加ふるにその組織内には一種の防腐劑たる可き松脂を藏して容易に幹の腐朽を來たすやうなことがない、他の松脂のやうなものを含んでいない植物であつてみると枝の切り口其他の點から雨水が浸入してそれがためにそこから腐朽を來たす基となつて終に全体の枯死を來たすやうなことがあるが松にはそれがないのである。

その含める松脂は以て樹の腐敗を防ぐに足りその性は強健であるのであるから強風に吹き斃されないう限りは幾千萬の後とてもそが青々したる葉を以つて後生を導くのである。

記念碑の石は雨雪に遇ひて年々に腐朽して終には崩壊するの運命を持つておる堅實なる可き銅とても何時かは腐敗するを免かれぬ、然かし年々新らたなる生命を増して行く松は崩壊腐蝕もしないのである、物を記念するには誠に適當のものと云はねばならぬ。

此故に記念碑の側や銅像の一方には必ず松を植え置くがよい、碑は年々崩壊して細り行いたとて松は年々にその太さを増すのである、從來何の某手植の松と云ふものは我邦到るところに見出さるゝ之れ乃はら吾等の祖先がすでに松の性狀を貴んだ證據ではあるまいか、讀者諸君よ何か物を記念するのに徒らに種々

なる計畫に多くの金錢を費すよりも先づ樹を植へらるゝがよい、松を植へらるゝがよい、後の庭に前の庭園に植へられたる松は時と共に太くなり行きて衛生上其他諸般の點に於て多大なる利益を後世子孫に残すであらう。

松はその材とても決して劣等のものではない、いや場合に由つては松でなければならぬことさへある、薪炭の材料としても決して劣等のものではない松の記念林が數百年の後に之れを植へた人の徳を現はすと云ふことを思ふさへ意味深きことではないか。

特に松は他の樹木の生育しない所にさへ能く生育繁茂するものであるから學校の兒童をして記念林をかゝる場所に植へ込ますのも興深きことではないか、兒童に手植えされたる松は何時までも彼等の成功するのを待つであらう、之れを待つ松に對して小供等は一層の勵みを増すであらう、余も實にかゝる記念業の

普く全国に行はれんことを待つのである。
尚ほ茲に松の大木にして往々その幹の中心や或は大きな枝の切り口などが腐朽してそれを全体に及ぼす掛念のある場合に如何に手當てす可きかを述べて此話を終るであらう。

元來樹木の中心は大木になる程最早や生活力の衰へておるか或は全くなきものである。此故に何等の理由に由つて雨水その他の水分がそこへ浸入したとすると計らずもそれが原因となつてその中心が腐朽することがある。かかる際には先づ石灰水にて成る可く良くかゝる場所を洗ひて後その穴のところを「セメント」で埋め置くのである。元來かく樹心の腐朽するのは樹心に微菌の浸入するからであるに由つて之れを殺滅すると同時に之れが浸入を防ぐ方法を取らねばならぬのである。之れを爲すには右に述べたやうに石灰水で以て洗う

て先づ害菌を撲殺して置いてそれから「セメント」でその穴を防ぐのを最も良しとするのである。

それから松は場合に由つては毛虫に由つてその葉を食害さるゝことがあつて之れが山林や大木に多く発生した場合にはその驅除が困難であるが盆栽だとか庭の植木位に発生した場合には石油か石油乳劑を掛ければ容易に殺滅さるゝのである。

第十八話 松茸の養成

茲に本書を終るに望み松に關係のある、松茸のことを述べて諸君の参考に供しやうと思ふ。

松茸狩りは實に趣味の多い面白い遊山の一つである、子供等には奨励す可き

のである、我邦のやうな山の多い國ではかゝる山遊びは心身の健康を計るに最も良ひ方法と云はねばならぬ、東京のやうな平野の真中にある大都會の子供等でも交通の便多い今日の世に一日の清遊を空氣の清き山野に過すのは實に有益なること、云はねばならぬ、人の子は同時に自然の子であらねばならぬ、なる可く大なる自然に接して自然の趣味を解するやうにしなければならぬ。管に子供等ばかりでない、大人でも出來得る限り大なる自然に接して小なる事に追はれたる心を洗ふのは誠に必要ではあるまいか、河海に釣を垂れるのが趣味があれば山に茸狩りをするのは更らに／＼趣味深きこと、云はねばならぬ、奥山に紅葉踏み分け鳴く鹿の聲聞く時を悲しき秋に紅葉掻き分け奥深く迷いながらも茸をば得んとてさがす趣味は経験のない人々には不可解であらう況んや松茸そのものが佳香佳味を有して吾等の食欲を挑發して身体の健康に資

することの多き他の運動遊戯と比して同日の談ではないのである。さて松茸は如何にして出来るか、松と如何なる關係があるか人工で如何にして培養せらる可きかについて少しく述べんに松茸は名の示す如く菌類の一種であつて好んで赤松の根際を生ずるものである、頂度推茸が推の木に發生するやうに松茸は松の樹を離れては出來ないのである。菌類とは尙ほ餅に生ずる「カビ」の如き性状を有するもので適當なる温度と濕氣と養分とさへあればそれで發生するのである、ところで此適當なる温度と濕氣と養分とはそれ／＼菌類特有のもので従つて椎茸に適當な温度や濕氣や養分は必ずしも松茸には適当ではない、松茸には松茸特有のものを要するのであるから自然の状態では松茸は松の根際でなければ出來ない。松茸は秋季發生するのが通常ではあるが春季に發生する場合も少くない之れ春

季とても秋季に於けるやうに温度と濕氣との適當なる場合に遭遇するとそれで發生するのである、その松と如何なる關係があるかと云ふことは未だ詳細なことは分らない、推茸ならば推の木の腐朽したものの上に發生するのであるからその木から養分を取ると云ふ關係で發生すると云ふことは分つておるから推の木を持ち來れば何れの場所でも發生するのであるが松茸は別にかゝる場合に松の木に直接に發生するのでないから松と如何なる關係があるかは確かに云ふことは出来ないけれども多分松葉の先から落つる露に含まれたる養分と松葉の腐朽したものから松茸の發生に大關係があるのである。

松茸の發生する場所は松林であつて濕氣の多き土の軟らかな腐朽土の多いやうなところで一度び然生した所にはその菌糸がそこら近邊に蔓延しておるから年々同一場所に發生するのである、少しく植物學を學んだ人々は定めて知らるゝ

であらうが元來松茸の本体は地面に蔓延せる白色を帯びた糸の状態をしておる菌糸と稱す可き部分で吾々の所謂松茸なるものはその菌糸の所々から發生するので頂度高等植物の花に當るものである。

此故に松茸と稱す可き部は乃ち一種の生殖器でその傘の裏面には細かき種子に當る胞子が無數に生するのであるその胞子が地に落ちて濕度と温度とに由つて發芽して菌糸を生じその菌糸からまた松が發生するのである、かゝる次第であるからもしも庭の松の樹の下にそれ等の發生したる菌糸の一塊を取り來りて絶へず注意して適當なる温度と水分とを與へ加ふるに松の落葉の腐朽したるものを養分として施し置けば松茸は容易に發生するのである。

要するに松茸の發生には適當なる温度と水分とそれから松葉の腐朽したものと松の葉から落つる露が必要なのであるから之れ等の條件を與へさえすれば松茸

は何れの場所にも発生するのである。此松の葉から落つる露はなくても発生せぬことはないが幾分か香気が少ないやうな傾がある、松と關係のあると云ふのは乃ほち松の落葉の腐朽したものから生ずる養分の關係であるらしい。此故にもしも温室などにて四時常に適量なる水分と温度とを給してそして松の落葉の腐朽したものを施し置けば松茸は発生するのである、容易に発生され得るのである。

かゝることはすでに實驗せられたことで理論實驗上共に確かなことであるが、かゝることを述ぶるのは本話の目的ではないから此位にして置くが右の方法さへ行へば誰にでも出來得るのである。

之れを要するに余は松茸狩りを盛んに奨励したのである、従つて單に之れを狩り取る許りでは容易にその種が盡きるのであらうから一方茸狩りを奨励すると

同時に一方之れが培養の方法をも講じなければならぬ、乃ほち従來松茸の発生しない松林には成る可く之れが発生を促がす状態にして種子を植へ付ける方法を講じなければならぬのである。

廣き庭園を有せらるゝ人や廣き松林を有せらるゝ人は何とか方法を講じて松茸の発生を促がすの方法を取り之れを遊山する人々に貸貸するも妙であらう。

兎に角國の進運につれて健全なる面白き遊山の方法を講ずるのは將に勉む可きのことである、之れには茸狩りなどを以て第一とす可きことを確信するのである、山の趣味は海の趣味よりは一層複雑で心身を慰し吾人に利することが多い四方海を有する我邦の青年は海の遊びをなすと同時に山の遊びにも趣味を持たねばならぬ、海も山も吾等の來つて遊ぶや待つておる兎にも角にも山に海に親しまねばならぬ、學校の狭き庭に於ける「テニス」や「ベースボール」などよりもど

れ程面白くて快活で愉快が知れぬ、四方海で圍まれると同時に到るところに山を有する我國の人々は海山共に我が家であると云ふ覺悟を持たねばならぬ、海岸にも山にも松は吾人を待つのである。

松 培 養 及 手 入 法 終

大正
十一年八月九日印刷
大正
十一年八月九日發行

盆
松 培 養 及 手 入 法
定價金五十錢



著 者 井 上 正 賀
發 行 者 岩 崎 鐵 次 郎
印 刷 者 木 村 榮 吉
印 刷 所 文 英 社

發 兌 元

東京市神田區
鍋町廿一番地

大 學 館

電話本局三〇六七番
支店東京四五一七番

農學士河南休男君著

正價五十錢

家庭の花果樹 培養詳説

郵税六錢

本書は主として中流家庭に應用し得べき範に關於て實際的に話述し且つ營利的よりも寧ろ娛樂用としての栽培法を採用せる所即ち本書の主眼なりとす

- 花木類 ●觀葉樹木類 ●草花の種類 ●播種法 ●苗の移植法 ●肥料と手入 ●草花開花期一覽 ●色別草花表 ●栽培各論 ●球根類栽培法 ●邦産の名花 ●果樹の効能 ●果樹の種類 ●整枝と剪定 ●接木法 ●果樹各論 ●葡萄 ●桃 ●李 ●梨 ●苹果 ●蜜柑類 ●柿 ●杏 ●梅 ●枇杷 ●櫻桃 ●無花果 ●樹莓 ●須具利 ●草莓等

附録 II 藥用植物

農學士井上正賀君著

本版説明圖入

觀花食用 百合培養法

正價五十錢

郵税六錢

娛樂と營利

- 百合の根 ●百合と本邦の風土 ●百合栽培と學理 ●百合の種類 ●百合の生理 ●百合と氣候土質 ●燻炭の説明 ●百合と燻炭 ●百合の肥料 ●施肥の方法と時期と分量 ●百合の繁殖 ●種球の撰び方 ●百合の連作と植付期 ●百合の植付方法 ●新種育成法 ●百合の害蟲驅除 ●百合の病害 ●收穫貯藏荷作 ●販賣と收支計算

趣味と實益

農學士 井上正賀君著

木版説明圖入

變咲 薔薇培養秘訣

正價五十錢
郵稅六錢

要 大 次 目

- 四季の花薔薇
- 薔薇の特色
- 薔薇の芳香
- 薔薇の生理
- 薔薇の種類
- 薔薇と土質
- 薔薇と燐炭
- 薔薇と肥料
- 薔薇變咲と施肥法
- 人工媒助法
- 質生養成法
- 薔薇接木法
- 薔薇芽接法
- 薔薇の伸木法と分條法
- 薔薇の移植法
- 薔薇變咲培養法
- 薔薇名花培養法
- 變咲培養と温室

農學士 井上正賀君著

シヤポテン蘇鐵培養法

正價五十錢
郵稅六錢

世間唯一の手引

- シヤポテンの種類
- シヤポテンの性状
- シヤポテンの生理
- 何んな土質がよきか
- ごんな肥料がよきか
- 繁殖の方法
- 變り物養成法
- 如何にして植付くるか
- 四季の培養方法
- シヤポテンと温室
- シヤポテン培養實驗談
- 優等種培養實驗談
- 蘇鐵の性状
- 蘇鐵の生理
- ごんな土質がよきか
- ごんな肥料がよきか
- 如何にして繁殖するか
- 如何にして繁殖するか
- 移植は如何にすべきか
- 蘇鐵 季培養法
- 蘇鐵培養實驗談

斯道實驗家の苦心談

農學士 井上正賀君著

牡丹芍藥培養法

正價五十錢

郵稅六錢

牡丹芍藥は古來より東洋の名花とし花中の王として賞美せられたるに、他草花の如く栽培に關しての書籍は一として上には、はれざるを遺憾とし著者の實驗を基礎として詳細周密に培養の秘訣を説述せられたる珍書なり。

- 牡丹芍藥の美(十節)
- 牡丹芍藥の生理(十四節)
- 芍藥の種類(二節)
- 牡丹芍藥の種類(十一節)
- 牡丹芍藥と土質(九節)
- 牡丹芍藥の燻炭(八節)
- 牡丹芍藥の肥料(十四節)
- 牡丹芍藥の變換培養法(八節)
- 牡丹芍藥の繁殖(十四節)
- 牡丹芍藥の栽培時期(六節)
- 牡丹芍藥の變換培養法(八節)
- 牡丹芍藥の栽培手入法(十節)
- 牡丹芍藥の温室(八節)
- 牡丹名花培養法(十八節)
- 芍藥名花培養法(八節)
- 牡丹栽培家實驗談(八節)

●花壇●手入●性狀●移植●落葉後の取扱●害虫●箱植●晩霜の注意●肥料●葉●莖●根●花●名稱●鉢植●砧木●接木●播種●苗床●繁殖●温●種子貯藏 (説明木版圖入)

農學士 井上正賀君著

和洋草花と肥料

正價金五拾錢 郵稅金六錢

附盆栽の肥料

方今和洋草花の培養日を逐ふて盛なりと雖も培養の根本となる可き肥料の知識を缺知するが爲めに草花の改良を見る事能はざるは遺憾の次第なりとす、著者夙に肥料専門の學を修めたる上に草花の肥料に就きては多年の研究と實驗を積みたるに依り此に本書を著して三十餘種の肥料と草花の關係應用を詳説し草花栽培家の從來會て試みざる燻炭肥料に就きて殊に精細なる叙述を試みたり、されば本書を一讀してこれを應用すれば必ずや草花改良に數段の進歩を來さんこと疑なし。實に園藝家の爲めに福音たる珍書也。

- 植物生育の理●花の生理●花と肥料●草花肥料の種類●燻炭肥料の事●草花と燻炭肥料●施肥の方法と期節●肥料分解の事●本邦草花肥料●朝顔●牡丹●薔薇●芍藥●水仙●石竹●千日紅●矢車●紫陽花●翠菊●福壽草●罌粟●松葉牡丹●矢車●秋海棠●紫苑●秋蘭●百合●桔梗●金盞花●櫻草●紫陽花●翠菊●福壽草●罌粟●松葉牡丹●矢車●萬年青●女●樓斗菜●秋●花●菖蒲●アネモネ●スイートピー●モンテブレシヤ●ジカ●チユール●ベロニス●チナンキユイラス●チユール●ツブ●レセダ●コスモス●ヒブリダス●ロベリア●リナリヤ●パルトニヤ●グロキシンヤ
- 西洋草花肥料●ダリア●バラ●アネモネ●スイートピー●モンテブレシヤ●ジカ●チユール●ベロニス●チナンキユイラス●チユール●ツブ●レセダ●コスモス●ヒブリダス●ロベリア●リナリヤ●パルトニヤ●グロキシンヤ
- 盆栽の生理と肥料

盆 栽 研 究 會 編

才 毛 卜 及 蘭 培 養 法

正價五十錢

郵稅六錢

斯 道 大 家 實 驗 談

萬年青培養の著書は絶無也

上編 萬年青培養法

●益栽としての萬年青●蕃殖の方法●作土●移植●肥料●害虫驅除●嫩芽の截取●實の採集●寒中の管理●屈曲變形法●媒助變開法等一切の必要條項を擧げし

一月より十二月に到る一年間の培養法に就

三種の實驗談に基いて詳萬年青の種類

數十種を擧げ葉形ノ稱呼●葉文斑條の稱呼●葉面地の稱呼●花の性質●實の種類及實生●根の變化●優等品の産地をも細述せり

下編 蘭 培 養 法

一月より十二月に到る四季の培養法を二種

の實驗談に基きて蘭花の種類數十種を擧げて各性質名稱培養の方法を説明す

蘭培養は至難を以て有名也

苦 心 經 營 の 珍 書

農學博士鈴木梅太郎君序
宮下正男君著

藥用植物栽培及利用法

定價金五十五錢
郵稅金六錢

藥用植物の如何なるものか、之が一切の解説を與へ、且つ其性質狀

態之に藥効、其用法、用量を明にし更に農家の副業收

利を見る可き種類に就葉莖部、果實部、花蕾部、

根部、全部の五綱目に分ちて●人參●生薑●黃芩●大黃●龍膽●

リソ●忍冬●藥用泊芙蘭●除虫菊●罌粟●オレイフ●ホツブ●亞麻●たうごま

●尚香●樟●カミソレ●枸杞●烏瓜●甘草●木通●麥角等●其他百七十二種の栽培法及

製法について説明圖二十九個挿入し平易なる文字を以て詳述せる珍書なり

農學士 小山繁太郎先生序文 (説明寫真版挿入)
黃 白 園 主 人 編

四季菊花栽培秘訣

價五十錢
郵税興 錢

菊花栽培の困難にして且丹精たるもの殆んど皆無なるは吾人の大に遺憾とする所なり此に於てか 經驗に富 諸先輩の苦心談を参考 實地の効用を目的 理想的栽培法を詳述せるもの 即ち本書なり。

春菊栽培法 根分の時期◎根分後の主株◎苗假植法(植付後の注意◎假植地) 苗の選擇法◎盆栽の菊◎畑作りの菊◎定植後の肥料◎鉢植取扱法◎霜除の方法◎冬の灌水◎普及開花期◎春菊の種類◎種子の保存法◎挿木及接木法◎培養法◎畑土の改良法◎塵介土改良法◎肥料の種類◎苦心を要する點

夏菊栽培法 根分の時期◎盆栽培養法◎摘芽の方法◎培養方法◎冬季の管理法◎害虫驅除法◎支柱法◎給水及給水量◎開花期及花壽◎落花後の管理◎咲を避く◎夏菊の種類

秋菊栽培法 第一實驗說◎栽培法◎鉢と花輪◎土壌の使用法◎鉢の表裏◎摘芽法◎土壌作成法◎肥料使用法◎備蓄法◎支柱の樹方◎完全なる接木法◎砧木の選擇◎接木後の注意◎

黃菊と接木第二實驗說 根分の時期◎苗の根分法◎苗の選擇法◎花壇植付期◎花壇の設備◎花壇の穴と剪取◎肥料の種類◎止肥及灌水◎摘芽法◎花壇に對する注意◎豫備菊の栽培◎菊栽培各種◎菊の鉢植法◎朝夕の灌水法 第二實驗說 根分の時期◎假植の是非◎灌水の方法◎霜除の設備◎假植と施肥◎肥料の準備◎肥料及作土保有◎定植◎鉢植法◎摘芽法◎花のつけ方◎定植と枯葉◎芽の良否識別法◎菊の芽管理法◎篠作りに限る◎朝夕灌水法◎支柱の設備◎土の盛り方◎施肥法◎菊と夕日の關係◎霖雨中の管理◎開花前に良否を識る法◎鉢の選擇◎害虫驅除法 第四實驗說 ◎親株の選擇◎花の繁殖法◎實生の菊と花の變化◎播種用土◎種播き法◎栽付法及栽培法 第五實驗說 ◎大菊及中菊栽培法◎菊の栽培法◎苗の繁殖法◎施肥法◎秋菊の種類

寒菊栽培法 ◎寒菊栽培法◎花壇及盆栽◎懸崖風栽培◎矮生定植法◎簾作り法◎意匠栽培法◎切花用栽培法◎優れたる栽培法◎栽培及定植法◎植付後の管理法◎挿木法◎秋季の挿木◎新種作出法◎培養土の選擇

菊栽培問答 ◎土質の選擇◎乾土の作り方◎油粕の使用法◎花肥とする肥料◎鉢植施肥◎土質と害虫の關係◎人造肥料◎根分の時期◎苗床の肥料◎霜除法◎假植の可否◎土は落すべきか◎植前の摘芽◎根は切る可きか◎花壇の造方◎害虫預防法◎摘芽法◎花肥の施肥法◎害虫驅除法◎害虫の研究◎花壇の設計◎花壇の雨障子◎雨障子の造り方◎花の觀賞法

氣候と植物 ◎氣候◎太陽◎地球◎大氣◎植物と光線◎溫度と海洋◎風と溫度◎植物と溫度◎植物生育と氣溫◎氣壓◎植物と風◎濕氣と植物◎日本の植物帯 南部半熱帯◎北部半熱一帯◎白檜帯

子爵 伊東已代治君題字
香樹園主人 江原春夢共編
(寫真版五十二葉挿入)

名家盆栽奇石逸品集

價五十錢
郵稅六錢

本書は編者が諸名家を歴訪し其愛藏の逸品を撮影したるものを蒐集せり加ふるに各自多年の経験に於ける培養及配置の方法に就いての苦心談をも掲載したれば彼の徒に机上の研究に於ける坊間の書は全くその撰を異にせり。掲載寫真版左の如し。

●柏(喜谷市郎右衛門氏藏) ●杜松(小栗富次郎氏藏) ●檜柏(加藤樹峽氏藏) ●あかひで(英子爵藏) ●杉(小宮三保松氏藏) ●巖石松(大隈伯爵藏) ●小品盆栽(大隈令夫人藏) ●宮櫻(板倉子爵藏) ●柏(山本豊清氏藏) ●富士按(益田孝氏藏) ●桑(栗林半江氏藏) ●櫻(萩原彌吉氏藏) ●石榴(常盤津林氏藏) ●紅葉蕨(大隈伯爵藏) ●野梅(長井利右衛門氏藏) ●小葉楓(松澤蒼龍氏藏) ●白檜(鈴木雪友氏藏) ●杜松(大隈伯爵藏) ●根洗石付の杉(西村覺三氏藏) ●黒松(平岩龍虎氏藏) ●眞柏(香樹園藏) ●松(栗林松壽氏藏) ●眞柏(木村源兵衛氏藏) ●姫石榴(喜谷竹陰氏藏) ●野梅(高橋新吉氏藏) ●赤松(松澤樹(栗林松壽氏藏) ●針樅(鈴木政右衛門氏藏) ●檜(梶果(奥貫雲泉氏藏) ●石榴(服部八右衛門氏藏) ●赤松(永富雄吉氏藏) ●玉眞蘭(奇石(吉田丹左衛門氏藏) ●刷奇石(下村壽抱氏藏) ●奇石(西村覺三氏藏) ●眞柏(大畑多村氏藏) ●柏(高木利八氏藏) ●杜松(伊藤博邦公藏) ●奇石(柴田伊吉氏藏) ●そろ(渡邊千秋伯藏) ●石榴(奇石(岡田市太郎氏藏) ●ぶな(昔香園藏) ●姫石榴(神田樂天氏藏) ●盆栽陳列(加藤樹峽氏藏) ●盆栽陳列第一席(百草園) ●盆栽陳列第二席(百草園) ●盆栽陳列第一登(清大園) ●盆栽陳列第二席(清大園) ●盆栽陳列第一席(千樹園) ●盆栽陳列第二席(千樹園)

農學士 野村安太郎先生著(盆栽陳列寫真 本版説明圖入)

盆栽植物採集及培養法

價廿五錢
郵稅四錢

坊間に流布する盆栽培養の書籍散て少なしと謂ふ可からざるも、其の根本たる植物は何れより採集するやを説きしもの殆んどこれなし、著者頗る遺憾とし數年間の苦心に依り實生物を成育し、櫻木を肥培する方法即ち盆栽として觀賞し得らるゝに至るまでの方法手段悉く網羅し詳説せられたる無比の珍書なり 目次の大要左の如し。

盆栽植物 ●盆栽植物の要素 ●發育の素直なる事 ●根張の強盛 ●盆栽植物の樹木 ●實生物の種類 ●柯枝の數多ある事 ●古色を帯る事 ●盆栽用の樹木 ●實生物

採集法 ●實生物の撰擇 ●實生物發生地 ●實生物培養法 ●實生物の植付 ●植付

●實生物と土鉢との關係 ●土鉢に植附ける法 ●實生物花壇培養法 ●實生物培養法 ●實生物採集の場所 ●松 ●杉 ●檜 ●榎 ●樺 ●榆 ●楓 ●沙羅双樹 ●榛 ●落葉松 ●山桑 ●栗 ●柳 ●黃櫨 ●槻 ●かなしで ●曾根 ●榊 ●山日紅 ●いぼた ●檜 ●紫金牛 ●梅 ●梨 ●櫻 ●桃 ●李 ●花黃楊 ●藤 ●早月 ●木瓜 ●石楠花 ●柘榴 ●百日紅 ●葦 ●落 ●常夏 ●秋海棠 ●萬年青 ●佛甲草 ●蘭 ●石菖

農學士 後藤彌一先生著

家庭園藝 盆栽手入れ法

正價廿五錢 郵稅四錢

梅◎椿◎水仙◎福壽草◎蘇鐵◎桃◎薔薇◎蘭◎海棠◎松◎柳◎藤◎竹
 ◎檜◎櫻◎牡丹◎芍藥◎萬年青◎梧◎石菖◎萬兩◎菊◎南天◎石
 榴◎木犀◎李◎柑橘◎佛手柑◎百日紅◎萩◎雞頭◎櫻欄◎芭蕉◎杉
 ◎柿◎錦木◎杜松◎榎◎櫻草◎落葉松◎木瓜◎梅嫌◎山茶花等著名
るな草
木花數百種に就一月りよ十二月に到每月の栽培法に分類
し各盆栽毎に灌水の注害虫の驅移植
春時
根別播種付植鉢植◎日除◎箱室◎温室の準霜除◎施肥◎接木◎挿木の數十
項に分
ちて詳細綿密に
説明したれば盆栽愛玩者の必携座右の珍本たり附録

手入一覽表

332
367

7. 12. 20



332
367

終

